植木センターだより

平成２９年　第２号（Vol. 131）

ヒメシャラ

ツバキ科の落葉性高木ナツツバキ（別名：シャラノキ）の近縁種で、葉も花も小さく、幹肌は赤みを帯びます。センターでは、利休七選花のナツツバキの近くに植栽されており、両種ともに６月上旬～中旬に清楚な花を咲かせます。

目　次

研修リポート「接ぎ木ークサボケ（シドミ）ー」　・・・・２
調査研究の現場から
　「長期休眠型種子の休眠打破についての調査」・・・・・４
緑化木の主要害虫 №１６　（オオスカシバ）・・・・・・・６

研修リポート

「接ぎ木－クサボケ（シドミ）－」

日時：平成２９年３月８日　９時３０分～１６時３０分
講師：園芸家　　横　田　直　樹

今回は、「接ぎ木－クサボケ（シドミ）－」の研修を紹介します。

講師は、植木センター開所当時から３０年近く、接ぎ木の研修で講師を務めていただいている園芸家の横田直樹さんです。

本日のテーマ（題材）は「クサボケ」（別名「シドミ」）です。

以下、資料の要点や印象に残った話、実習の状況を紹介します。

午前中は、資料に基づいて接ぎ木の目的や方法など接木全般についての話でした。

講師の横田直樹さん

―なぜ接ぎ木をするのか―

樹木は、播種や挿し木で繁殖することが多いですが、接ぎ木は都合の良い遺伝子を持つ植物を能率よく増殖するための有効な手段です。

「果樹は、播種ではほとんどの場合、劣化したものしかできません。トンビがタカを産むことはほとんど無く、カラスを産むことが多いです。」

カキやミカンは、枝変わりの枝を接ぎ木して新品種が作られていますが、「ミカンの場合、同じ品種でも1本毎に味が異なります。台木の種類によって異なるのです。」

―接ぎ木の条件ー

カルスの形成を促進するために適当な温度と湿度が必要ですが、接ぎ木の成功を阻害する因子を取り除いておくことも必要で、樹種によってはタンニン類を除いたり、台木の水分を減らしておきます。さらに「良く切れる刃物を使用することが不可欠です。」

―穂木と台木の親和性―

穂木と台木は、同種の植物を使用するのが基本ですが、近縁の植物を使用することもよくあります。

異種間の接ぎ木は、成長を促進したり、花芽や結実を促進するなどのメリットを期待して行うもので、接ぎ木が可能であっても、これらの目的が伴わなければ経済性に見合うことはありません。

「ウメはウメに接ぐよりモモに接いだ方が早く成長します。ただし寿命は短くなります。サンザシはサンザシに接ぐと開花に５年かかりますが、カリンに接ぐと２年目に咲きます。ゴヨウマツは台木の確保が容易なクロマツに接ぎます。」

次々と、穂木と台木の組み合わせによる事例が紹介され、長年の経験により培われた接ぎ木技術の奥深さにただただ感心するばかりでした。

―接ぎ木の方法―

接ぎ木には、台木を掘り取り、室内で接ぎ木をする「揚げ接ぎ」と、圃場に植えたままの台木に接ぎ木をする「居接ぎ」があります。

春先の接ぎ木の多くは前者で、本日の実習も「揚げ接ぎ」で行います。

「稲沢でも近年は接ぎ木のできる人が激減しました。採算的に１日に千本接げないと仕事

になりませんから…。」

「接ぎ木の成否は天候がポイントになります。接ぎ木のプロ・アマ関係なく、特に芽接ぎは接ぎ木後３日程暖かい日が続けば成功率は高くなり、直後に雨になればほとんど失敗です。台木の掘り取りや穂木の採取も暖かい時間帯に行うことが大切で、怠け者の方が活着率が良いです。朝５時から働く働き者はダメです。…（笑）」

午後は接ぎ木の実習です。

台木の「カリン」は、センターで育成していた苗木を午前中に堀取りました。

穂木は、先生が持参された「白花シドミ」「縞実カリン」「八重咲紅花シドミ」「フイリカリン」「ルビーサンザシ」「白花長寿梅」の６種です。

始めに、接ぎ木の手順を説明しながら、先生が鮮やかな手さばきで見本を示されました。

接ぎ木を実践して手順を教示

「台木は、茎と根を切り落として握りこぶし（１０cm位）位にし、穂木は５cm程度に切ります。切り出しナイフで台木を１～１．５cm割り込み、くさびに切った穂木を差し込んで両者を密着させてテープで２～３回巻いて結びます。」

受講生は、手順の一部始終を習得しようと先生の手元を食い入るように見つめますが、あまりにも手際が良すぎてあっけに取られたような表情です。

特にテープで巻いて結ぶ作業は難しいため、何度も繰返しゆっくりとした動作での教示を求める受講生もいました。

パラフィン付けをしてポットに定植し、接ぎ木用キャップをかぶせて接ぎ木完了です。

今後の管理については、「暖かな場所に置いて、４月２５～３０日の曇か雨の日にキャップを取り、５月中旬までは日陰に置きます。」

最後に、来年の接ぎ木研修の題材として予定されている「リトルジェム」と言うタイサンボクの矮性種についての説明があり、本日の研修は終了しました。

皆さん、お疲れ様でした。

80～90℃のパラフィンに付ける

定植してキャップをかぶせ完了

－調査研究の現場から－

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、平成２９年度は次の３課題に取り組んでいます。

・新梢伸長抑制剤による剪定作業の軽減効果についての調査（Ｈ２８～２９）

・剪定等により発生する枝葉の堆肥化に関する調査（Ｈ２８～３０）

・長期休眠型種子の休眠打破についての調査（Ｈ２９～３１）

ここでは、今年度から新たに取り組んでいる「長期休眠型種子の休眠打破についての調査」の実施状況を紹介します。

長期休眠型種子の休眠打破についての調査
（平成２９年度～３１年度）

１ 調査目的

緑化木を生産する場合、実生又は挿し木による繁殖が一般的に行われていますが、種子は樹種によって様々な発芽のタイプがあります。

多くの種子は、成熟の「翌春発芽するもの」や「翌春と翌翌春に発芽するもの」に分類されますが、中には成熟の２年目ないし３年目の春にはじめて発芽するものなど、実生繁殖を行う上で効率の悪い樹種もあります。

そこで、これら長期休眠型種子について、休眠期間の短縮による経営の効率化に資するため、休眠打破の方法を試行して効果的な処置方法を見出すことを目的として調査を行っています。

２ 調査方法

（１）樹種の選定

山中教授（東京大学農学部）による調査で発芽型がＥ（多年型）又はＦ（長期休眠型）に分類されている樹種で、実生繁殖が一般的に行われており、種子の確保が可能な次の樹種を調査対象として実施しています。

Ｅ（多年型）：成熟の翌年から４年頃までの春に発芽するもの

マンサク、マユミ

Ｆ（長期休眠型）：成熟の２年ないし３年目の春にはじめて発芽するもの

ヤマコウバシ、ソヨゴ、クロガネモチなど

（２）休眠打破処理

図解「植木のふやし方」に紹介されている次の方法で処理してから播種し、無処理の対照区と発芽状況を比較します。

ア 低温浸漬法：水温の低い流水か氷水に１～５日間浸す。

イ 低温湿層処理法：適当な水分と酸素を与えて数日ないし数十日間低温で貯蔵する。

ウ 変温法：２つの異なった温度域に１～２カ月間ずつ置く。

エ 温熱湯処理法：熱湯に数秒ないし数分間、あるいは温湯に数日浸ける。

※他に堅果を対象に傷付け法も紹介されているので、適した種子があれば行う。

３ 休眠打破処理の試行

●：採種　　☆：処理　　○：播種

（１）採り播き

処理法	対象樹種	処理及び播種の時期		
		２８秋	２８冬	２９春
低温浸漬法 温熱湯処理法	ヤマコウバシ、マンサク、ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●☆○		
傷付け法	マンサク、ヒトツバタゴ	●☆○		
無処理	ヤマコウバシ、マンサク、ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●○		

（２）翌春（H29春）播種

処理法	対象樹種	処理及び播種の時期		
		２８秋	２８冬	２９春
屋外貯蔵 （無処理）	ヤマコウバシ、マンサク、ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●――――		○
〃 ＋低温浸漬法	ヤマコウバシ、ソヨゴ、、マユミ	●――――		☆○
〃 ＋温熱湯処理	マンサク、クロガネモチなど	●――――		☆○
低温湿層処理法	ヤマコウバシ、マンサク、ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●―――	☆―――	○
〃 ＋低温浸漬法	ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●―――	☆―――	☆○
〃 ＋温熱湯処理	ヤマコウバシ、マンサク	●―――	☆―――	☆○
変温法	ヤマコウバシ、マンサク、ソヨゴ、クロガネモチ、マユミなど	●―――	☆―――	○

実施状況

低温湿層処理（保冷庫）(H29.2.6)

熱湯処理 (H29.3.7)

低温浸漬 (H29.3.7)

播種状況 (H29.3.9)

播種後の管理 (H29.3.9)

緑化木の主要害虫　No.16

オオスカシバ

チョウ目（鱗翅目）スズメガ科

産卵して飛び去る成虫　　H23.7.28 クチナシ

卵殻を食べる孵化幼虫（体長3㎜）
H23.9.15 クチナシ

若齢幼虫（体長13㎜）H22.7.16 オオヤエクチナシ

褐色型（体長20㎜）　　H22.9.24 クチナシ

左：老齢幼虫（体長54㎜）
H23.9.15 クチナシ
右：被害状況
H22.10.18 オオヤエクチナシ
下：体色は変異が多い
H22.10.8 オオヤエクチナシ

１．発生樹種

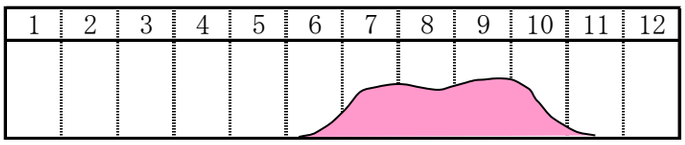
クチナシ、オオヤエクチナシ、コクチナシ

２．害虫の特徴（発生時期、形態等）

年２回の発生で土中で蛹で越冬します。第1回の幼虫は６月中旬に出現し、その後１０月下旬まで若齢～老齢の幼虫が混在していることが多く、産卵や羽化など、生活環の区切りの時期は不明瞭です。８月上旬～中旬に成虫が木の周りを飛翔し、産卵する姿をよく見かけます。卵は直径1㎜位で緑色、1粒ずつ新梢に産み付けます。

猛暑時は暑さを避けて葉裏等にいることが多く、糞や食痕で幼虫の存在に気付きます。

体色は変異が多く、体長は65㎜（老齢）で、スズメガ特有の尾角を備えます。



３．被害の特徴

幼虫は若齢時から新葉の縁を食害し、成長とともに食害量は多くなり、大発生すると葉は食べ尽くされて丸坊主にされます。

４．対策

葉や地上に落ちた糞で幼虫の存在に気づくので、見つけ次第捕殺しますが、広範囲で大量発生した場合は、薬剤散布が必要となります。

平成29年 6月　Vol.131　　編集：(公財)愛知県林業振興基金植木センター管理事務所
〒492－8405　稲沢市堀之内町花ノ木129
発行：**愛知県植木センター**　　TEL 0587－36－1148　　FAX 0587-36-4666